

地域の産学官連携による技術・事業革新の先導的な取り組みを顕彰する「産学官連携功労者表彰」(中国地域産学官コラボレーションセンター主催)の受賞者が決定。応募66件の中から、島根大産学連携センターの北村寿宏助教授と、出雲土建の石飛裕司社長が技術移転功労賞を受賞する。

島大センターと 出雲土建

産学官連携で 功労者表彰

建設
興業タイムス

功労賞は、大学の研究成果である特許・ノウハウを企業に技術移転し製品化した成功例として贈られる。両者は、安価な廃木材の有効利用を目的に、調湿や吸材に利用できる木炭製造

木調湿

共同研究で商品化



床下調湿木炭「炭八」の敷設の様子

技術を共同研究し、調湿木炭「炭八」を商品化。販売も伸び、ブランド化に成功している。現在は水質浄化の吸着剤等として、室内環境をより効果的にする研究を進めているほか、医学研究事例は03、04年度とも

部と共同研究したアトビー、アルギーに対する効果も学会発表の段階にある。

今回の受賞について、北村助教授は「島大との共同

100件を超えるが、収益にまでつながる事業は極め

て少ない。4カ年で工業化に成功できたのは、企業側の熱意と努力が非常に大き

い。とともに研究し、サポートできただけがうれしい」

と話す。

表彰式は6月6日、広島市で開かれる「第5回中国地域産学官コラボレーション会議」で行われ、受賞者による事例発表や、05年度同研究は、特に中小企業との連携が増えていくが、ま

た、産の熱意が大切。これ

に成功事例は今後も増えていくものと期待してい

ば、成功事例は今後も増えていくものと期待してい

る」と話す。
表彰式は6月6日、広島市で開かれる「第5回中国地域産学官コラボレーション会議」で行われ、受賞者による事例発表や、05年度同研究は、特に中小企業との連携が増えていくが、また、産の熱意が大切。これに成功事例は今後も増えていくものと期待してい